

第3期宮前区区民会議 第7回 地参知笑部会 摘録

日 時 平成23年6月14日(火) 18:00~20:00

場 所 宮前区役所 第3会議室

参加者 委 員 持田部会長、恒川副委員長、山下委員長、平井委員、久保委員、
中村委員、高橋委員、吉田委員、種村委員
直本副委員長(オブザーバー)
事務局 有山企画課長、雨宮係長、白石職員
佐谷コンサルタント

1 前回の振り返り

※ 前回の振り返りとして、各委員が資料1の内容を確認。

2 冊子による情報発信と仕掛けづくりについて

①目次について

吉田 各公園でやっていることを紹介してはどうか。団体の紹介はきりがなくなるが、老人会や子ども会、高齢者の市民団体を紹介する。老人会は40団体ある。

中村 高校生・大学生の世代では、安くておいしい店やスポーツができる場所を紹介する。若い世代では、食育講座を紹介する。高齢世代は花が見える場所を加える。病院と交通手段も紹介出来るといい。体験は手芸や工作の体験を紹介するといい。世代を超えるのところに農業体験を入れてはどうか。

種村 最初の意見と同じだが、どんな樹木があるかを木にぶらさげるといいと思う。

平井 それぞれのエリアで取材する人を募る。ネイチャーゲームをやっているが、自然体験を体験のところにしたい。どういう人がいるか、得意分野を紹介する。

持田 自然体験はやっている団体を紹介するのか。

平井 私が入っている団体がやっている。

久保 宮前区の自然の特色を紹介したい。ネイチャーゲームや冒険遊び場を紹介出来るとうい。冒険遊び場は世代交流が出来る場となっている。子育て世代はどこどこに集約されている。とここは分厚いから見ないという話になるが、人とのつながりがあると見るようになる。とここを使った体験レポートがあるといい。地域のお母さんたちが自主的にやっているグループに参加してみるなど。最近の若いお母さんたちは小さい子を抱えていてもスタッフをやりたいという人が増えている。また、産休の人も地域と繋がりたいという声がある。担い手になってくれる人はいるのではないか。高校生や大学生については、市民館で文化魂というグループがいる。その人達を中心につくってってはどうか。また、宮前スポーツクラブではミクシーを使った情報交換をやっている。

高橋 サイズや発行回数が決まっていない。内容についてはこれぐらいでいいのではないか。後はそれぞれの世代でやってみてはどうか。また、発行時期によっては今年中に動く必要があるのではないか。施設紹介でも生の声を出した方がいいので、全体的に体験の要素が多いと思う。また、マリアンナ病院の体験なども入れてはどうか。ゲームは予算が必要ではないか。ガイドブックの一覧は大変参考になる。

第3期宮前区区民会議 第7回 地参知笑部会 摘録

恒川 子育て世代では、子育て支援センターなどがどこにあるのか、救急診療所などがどこなのか知りたいと思う。子どもがいる働き世代は公園やなし狩りなど、親子で行ける場所に興味があるのではないかな。また奥さんは地産地消の直売所に興味があるのではないかな。高齢世代は散歩や病院に関心があると思う。体験では人が盆踊りのような集まるようなものを紹介してはどうか。

直本 産休と育休で1年半ぐらいある。そういう人たちに地域に興味をもってもらいたいのではないかな。また、高齢者と働き世代の中間や、高齢者といっても60歳代のような層があるのではないかな。

山下 町内会・自治会に入ってもらうことが重要ではないかな。お店としては、スポーツクラブや温泉を紹介してはどうか。また、直売所は多くあるので紹介してはどうか。さらに宮前区は大学がない。学生の知恵を拝借してはどうか。

持田 みなさんに意見を出してもらったがその結果はどうか。

佐谷 資料2と持田さんの意見については入れていないが、それ以外の意見では、高校生・大学生については、お店やスポーツできる場所や若者グループが追加された。若い世代は子ども会。働き世代は直売所やなし狩りが出来る場所、高齢世代は病院や老人会、花の見える場所、体験出来る場所では、農業や自然体験、里山、冒険遊び場、マリアンナ病院、スポーツクラブなど。ゲームはウォークラリーやクロスワードパズルを合わせたものなどが出てきていた。作り方はそれぞれの年代の人に体験してもらい、あまりコンテンツを詰めなくていいのではないかなという意見が出ていた。

持田 体験レポートはどうか。また、中学生・高校生が公園で遊んでいても疎まれてしまう。ゲームセンターを紹介するわけにはいけないし。

区 コンテンツを詰めることによって作り方を考えるというのもある。例えば働き世代だとどのような紹介になるのかな。コンテンツを考えながら、どういう紹介の仕方があるかを考えていただきたい。

②制作体制について

持田 どのように作っていくかということが問題となる。

平井 高校生・大学生のところに、中学生も入れた方がいい。

高橋 それぞれの視点でつくってもらえればいい。

久保 われわれは情報を提供して、選ぶのは取材する人でいいのではないかな。

平井 発行回数を多くしてはどうか。

持田 年に1回出すことは出来るのかな？

直本 2年に1回ぐらい出せないのかな。

恒川 転入者はどれぐらいかな。

区 7000世帯ぐらい。

高橋 情報発信は基本だと思う。いかに仕組みをつくっていくか。20ページぐらいなら毎年つくことはできると思う。広告収入を入れるのもある。また、世代はもう一つぐらいあるのではないかな。

久保 子どもが小学生に上がるとちょっと違うかもしれない。

直本 子どもが中学生になるとまた違う。

第3期宮前区区民会議 第7回 地参知笑部会 摘録

- 持田** 働き世代は大人が楽しむイメージだった。
- 平井** 独身世代もある。地域に入らないと思うが、子ども会の役員をやっている例もある。
- 高橋** 横浜市では婚活を仕組んでいた例もある。
- 持田** 昔は鷺沼プールがあったからいろいろな世代が集まったと思う。
- 恒川** これはこれでいいのではないか。つくる段階で詰めていく。
- 高橋** とことこを見た体験を入れると、とことこの紹介になると思う。また、参加券をつけると捨てられなくなる。
- 持田** 町会に参加する動機になるようなものがあるか。
- 直本** お祭り、お神輿など。
- 高橋** どの盆踊りが一番面白いか、というのをつくと面白いと思うが。
- 平井** どれも工夫しているから一番を決めるのは難しい。
- 高橋** お店を載せるのもできるかどうか。
- 久保** 体験ということで、個人的な意見として掲載すればいいと思う。
- 吉田** 親を呼んだ例もある。
- 久保** 親を呼んで地域になじんだ例を紹介する。
- 高橋** お店はOKとしてほしい。
- 区** 商店街連合会で推薦してもらえれば掲載できると思う。ただ、ガイドブックに掲載すると、2年間は特定の店だけが掲載されるので公平性の観点から難しいと思う。
- 持田** 若い子が紹介したいと考えたら載せてもいいのではないか。
- 恒川** 今の段階では拘束しない方がいいのではないか。
- 持田** 次の人たちに渡せるものということで考えているので、いろいろ出してもらっていいと思う。
- 平井** ガイドブックのガイドブックとして使ってみた体験をレポートする。
- 直本** 資料3に出ているガイドブックは入手可能なのか
- 区** いくつか廃刊になっているものもある。これらのガイドブックは解説が中心になっている。「実際に行ってみてどうだった」というのが今回の冊子の目玉だと思う。
- 久保** 体験と併せて既存のガイドブックの紹介をしたらいいと思う。
- 恒川** たまプラーザ駅の近くにサッカーができる所がある。宮前区にはあのような場所が欠けているのではないか。
- 久保** 先程、中高生は公園で遊びにくいと言う話があったが、冒険遊び場は中高生でも来てもらっている。
- 高橋** シニアリポーターという制度がある。誰がつくっていくのか。情報発信する仕組みが必要ではないか。
- 持田** 誰がつくるのかを考えていく必要がある。
- 高橋** みんなが参加してネットワークでつくっていくといいと思う。
- 区** 観光記者は？
- 高橋** 宮前の風は記者4名でやっている。まちづくり協議会や市民館も一緒にやっていくといいのではないか。部数は10000部、大きさはA4かA5判。いつ発行するのも決めてほしい。

第3期宮前区区民会議 第7回 地参知笑部会 摘録

- 区 どういう体制でやると良いか検討する必要がある。来年度予算にも関係する。
- 高橋 実行委員会形式より市民記者の養成講座をつくり、グループ化した方がいいと思う
- 持田 丸投げすることはできるのか。
- 高橋 るるぶのようなことはできると思う。捨てられない仕組みが必要だと思う。
- 持田 町会の運動会ではプログラムにナンバーを振って抽選するため捨てられない。丸投げがないとするとどうなるのか。
- 久保 市民館で市民を募って記者を養成するという方法もある。
- 区 市民館との連携もありえる。
- 山下 他の区ではどのようなものを配っているのか。
- 高橋 都筑区は冊子をつくっている。
- 山下 何かヒントとなるものはないか。
- 高橋 マップ形式のものもある。
- 平井 坂道はガイドブックをつくるのか。
- 直本 つくる。今のメンバーがある程度コースを選定する。今期だけではできないと思う。
- 区 坂道はコンテンツが絞られているので、作り方も違ってくると思う。
- 直本 坂道のガイドブックは1度つくればそれほど変わらない。
- 持田 次回までの宿題と日程を決めないといけない。
- 区 コンテンツを考えてもらったが、次の人たちへのヒントという形でまとめていく。
市民館との連携以外に何か方法はあるか。
- 高橋 まちづくり協議会に話をした方がいいと思う。
- 平井 まちづくり協議会や観光協会は同じようなことをやっていると思う。
- 恒川 まちづくり協議会は中間支援組織で、活動団体を紹介する団体である。区民会議は提案をして、実施方法についても提案する。
- 吉田 業者に丸投げするという方法もある。
- 高橋 継続してつくるために組織があった方がいいと思う。既存の団体にやってもらうということもある。
- 区 1度整理して、全体会までにもう1度集まってもらいたい。日程は7/15の午後8時からとする。